

事例6 利用者が突然暴力を振るい、関節を痛める

1 災害の概要

項目	内容
介護労働者	経験2ヶ月、50歳代の女性
作業	食事介助作業
災害の型	動作の反動、無理な動作
起因物	人
傷病	関節の捻挫
災害の程度	2ヶ月の休業災害



2 発生状況

介護労働者が食事介助を終え、流し台で食事後の片づけをしていたところ、突然、利用者が左上腕部を無理につかんできた。そのため、驚いて反射的に腕を振り切った際に腕をひねった。

3 原因

- (1) 利用者の気が立っており、近づいて来ることに気づかず急に暴力をふるわれた。
- (2) 洗い物作業中で、手がふさがっているため、おかしな向きに腕をひねった。

4 対策

(1) 事業者

- ① 利用者と介護労働者それぞれから人間関係等の問題点に係る情報を集め、必要に応じ、介護労働者の変更等の措置を行う。
- ② 介護労働者の職務上の悩みや不満等を相談しやすい体勢を整える。
- ③ セクシュアルハラスメント、暴力対策の対処方法の教育を行う。また、起きてしまった時の報告方法を確立しておく。

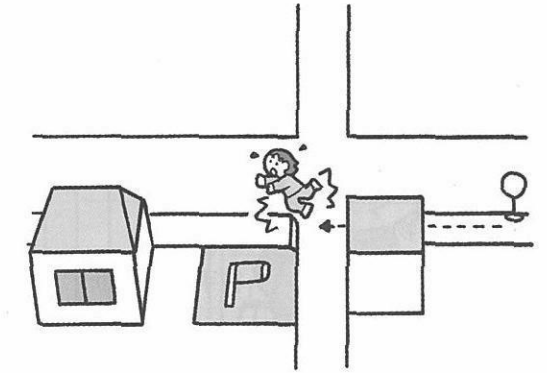
(2) 介護労働者

- ① 利用者とのコミュニケーションを図り、精神的なストレスを除いておく。また、その日の気分の状態を確認しておく。
- ② 会話等で利用者の位置を確認しながら作業を行う。

事例7 利用者宅へ向かう途上で、道路の段差につまずく

1 災害の概要

項目	内容
介護労働者	経験4年、50歳代の女性
作業	通勤途上
災害の型	動作の反動、無理な動作
起因物	道路
傷病	足首の骨折
災害の程度	1ヶ月の休業災害



2 発生状況

介護労働者が利用者宅へ向かう途上、バスを降車後、徒歩で利用者宅へ向かっていたところ、スロープのある道路の段差に足をとられ、足首をひねった。

痛みがあったが利用者宅へ向かい、介護作業を開始した。時間が経過するにつれ激痛と発汗が伴い我慢できず、作業を途中で中断し、病院に行った。

3 原因

- (1) 他の事に気をとられていたため、道路の段差に気が付かなかった。
- (2) その日の最後の利用者のため、体力が低下していた。
- (3) 安全意識が欠如していた。

4 対策

(1) 事業者

- ① 移動中に事故や災害の起こりやすい場所を書き込んだヒヤリハットマップを作成する。
- ② 余裕を持ったスケジュールを組む。
- ③ 疲労しにくい作業方法等の教育を行う。
- ④ 安全意識高揚の教育（KYT—危険予知訓練の導入等）を行う。

(2) 介護労働者

- ① 歩きやすく、疲れにくい靴を履くようにする。
- ② 日頃から筋肉や関節に負担のかからないような作業方法を取り入れる。
- ③ 各利用者宅の前後でストレッチ等を行い、疲労をためないようにする。
- ④ 体力の維持と強化への取り組みを行う。

※ KYTとは、危険（K）予知（Y）訓練（トレーニングのT）の頭文字の略で、危険への感受性を高めるトレーニング方法です。

要所要所で集中力を高め、間違いを減らす効果のある「指差呼称」や、実際の作業現場や作業を想定しどんな危険が潜んでいるか想定し、対策を考える「危険予知訓練4ラウンド法」などがあります。